

GREENVALLEY JOURNAL

July 2020 vol.9

連載1 最近のKAIR (神山アーティスト・イン・レジデンス)

2020年招聘アーティストが決定しました!

厳正な審査の結果、以下3名のアーティストが選ばれました。

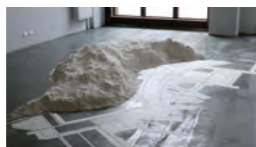
◆Luz Peusovich
ルース・ペウフコヴィッチ
《TIDE》2018



◆Ewa Weslowska
エーヴァ・ウェシヨフスカ
《It's just a matter of Time》2017



◆Jaime Humphreys
ジェイミ・ハンフリーズ
《Under Construction Ad Infinitum》2018



選考会は、実行委員会メンバーが農村環境改善センターに集まり数日に渡り開催されました。22年間、愛と情熱をもって取り組んできたKAIRプログラムで得た経験と知識をもとに、ご応募いただいた沢山の申請書類と向き合いました。ちなみに、アーティストの応募書類は日本語か英語どちらかでの申請をお願いしています。今年は国外からの応募が全体の約9割を占めました。例年通りではありませんが、翻訳チームは寝る間を惜しんで、作家たちの視点、思いを届けるべく、応募書類すべての翻訳を進めました。

オープンアトリエ:2020年9月27日(日)

展覧会期間:2020年10月25日(日)~11月3日(火・祝)、11月7日(土)~8日(日)

※KAIR2020の開催について、変更または延期となる場合がございます。詳細は決定次第、「イン神山/神山アート」ページにてお知らせいたします。

KAIR2020招聘アーティスト選考結果は、「イン神山」の日記帳/アート特集ページに掲載されています。(各アーティストについてのwebリンクもあります) <https://www.in-kamiyama.jp/art/diary/30927/>



連載3 ほんのひろば

絵本『AはアフリカのA』

イフェオマ・オニエフル 作・写真、さくまゆみこ 訳

この本の表紙を開くと何を表しているのか分からない絵が出てきて「これはなんの絵だろうか?」と惹きつけられます。もう1ページめくるとこんどは素敵なメッセージが現れます。アフリカの人々が生活の中で大事にしているものやことを、ナイジェリア出身の作者が写真と共にA~Zまでのアルファベット順に紹介していて、読めば読むほどアフリカの国のことがよくわかり愛着の湧く絵本だと思いました。

【お願いです】

改善センターに来られましたら、玄関のアルコールで手指の消毒をしたのち、ほんのひろばに入ってくださいようお願いいたします。

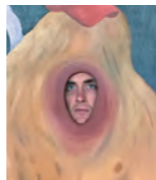


連載2 GV ニュース

去る5月30日に定例の年次総会を開催し、昨年度の事業並びに決算報告、そして今年度の事業計画にご承認をいただきました。2年任期の役員改選の年でもありましたので、新任となる理事をご紹介します。

ルーファス・ウォード

英国ランカスター出身。エジンバラ大学美術学部卒業。印刷会社でデザイナーとして働いた後、2010年に徳島県神山町へ移住。英語教師として勤める傍ら、表現の可能性を探る場「いとアーツ」を主宰する。



佐藤理事からの推薦コメント

ルーさんは、神山に移住して来て10年以上。今でこそ他にも外国人が増えてきているけど、中心にいて纏めてくれているのはルーさんだと思う。アートに造詣が深く、自宅にアトリエも構えている。これからのGVに国際化は必須だし、性格は静ひつで誠実な中にユーモアがあり理事にふさわしい。

今年度は、新型コロナによる大きな社会構造の変化の荒波への船出となりましたが、気分も新たになんとか乗り切りたいと思っています。引き続きご支援よろしくお願いたします。

ルーファス・ウォードさんについて (イン神山)
<https://www.in-kamiyama.jp/feature/feature-1/45423/>



連載4 GVメンバーリレー

竹内 和啓

(NPOグリーンバレー事務局長)



神山で暮らし始めて5年目の夏を迎えようとしています。一昨年に銀婚式を迎えましたが、性格的に“お一人様”大好きでもあり、四半世紀ぶりの一人暮らしをエンジョイしています。ただ、こちらに移るタイミングで所有していたスポーツカーを手放した“寂しさ”に耐えきれず、ほどなくオンロードバイクに手を出してしまいました。そして、バイクに乗り始めて気づいたこと。それは、「この辺はスーパー林道の聖地だった!」ということで、昨年とうとうオフロードバイクにまで触手を伸ばしてしまいました。今は天気の良い日に道なき道を求め、山の中を駆けめぐるのがオフの楽しみです。それなりに歳でもあるので、くれぐれも安全には注意を払っているのですが、行方不明になったら探してください(笑)



表紙「梅子黄」

撮影:生津勝隆

梅雨の最中の摩盧山正寿院焼山寺。参道には樹齢300年を越す杉の御神木が佇み、山門が霧にけぼっている。



神山のサポートについて

グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。詳しくは以下のページをご覧ください。
<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>



発行/お問い合わせ

認定特定非営利活動法人グリーンバレー
<https://www.in-kamiyama.jp/npo-gv/>
MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp
〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132
TEL: 088-676-1178
(編集:ニイチトセ)

山あいの町のアートプログラム 「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」

神山の町づくりは、町民自らが自主的に町の価値を創造することを念頭に行なわれてきました。NPOグリーンバレー(GV)は、その町づくりの土台となる「芸術」と「環境」の2つの事業をメインに、統括的に町づくりに取り組んでいます。今年22回目となるGVの芸術事業「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」は、神山の国際交流に端を発する国際的なアートプログラムです。



KAIR 2014 Stuart Frost (あくり) 撮影:小西啓三

手作りの芸術村

遡ること30年、1990年の春、大南(後に設立するNPOグリーンバレーの初代理事長)の長男が小学校に入学します。PTA役員会で学校を訪れた際、廊下に展示されていた人形とパスポートが大南の目に入ります。日米友好親善の印に1927年にアメリカから日本に贈られた12,739体の青い目の「アリス人形」のうちの1体でした。人形に記された出身地を目にした大南は、何かが始まるかもしれないと贈り主探しを始め、神山町民の有志でそのアリス人形のアメリカへの「里帰り」を実現します。神山では1987年頃からすでに海外の学生のホームステイ受け入れが頻繁に行われていたが、思ってもみなかった人と人との新しい繋がりを生む国際交流を肌で感じ重要性を再確認したメンバー数人は、神山の町づくりとして本格的に国際交流に取り組むべく、1992年に「神山町国際交流協会(GV前身)」を発足させます。1993年から13年続いたALT(外国語指導助手)受け入れプログラムの評判も良く、当時すでに町内のあちこちに外国人が滞在しているのが日常の



KAIR 2009 山中カメラ(神山スタジオ音頭) 下小学校運動場にて開催された「秋の大パングス大会」には150人もの町内外のみなさんが参加。

一コマとなる日はそれほど遠くないと感じられる様子でした。1997年に徳島県が発表した総合計画に「とくしま国際文化村構想」が盛り込まれているのを受け、「神山町国際交流協会」は神山に住民目線の国際文化村を創るべく町と共同で「国際文化村委員会」を結成、「国際芸術家村づくり構想」を県に提案します。その施策として1999年に始動したのが「神山アーティスト・イン・レジデンス(以下KAIR)」です。

おもてなし歴1200年

毎年8月下旬、国内外のアーティストが芸術作品を制作するために神山にやってきます。徳島県と言えば「お接待文化」。神山にもお遍路さんの札所(四国八十八ヶ所霊場第12番札所焼山寺)があり、古くから通りすがりのお遍路さんを歓迎し、接待する慣習があります。見知らぬ人を自然に町に受け入れ、自分でできることで応援する町民特性がアーティスト・イン・レジデンスの趣旨にマッチしていたこともあり、アーティストが制作に必要な道具を貸したり素材を調達するのを手伝ったり、手作りの食事をふるまったりすることは珍しくありません。こうして秋の展覧会で展示される作品はどこかで町民一人一人と結びつきのある「作品」として神山に定着していくのです。

アーティストと町民の化学反応

自然に恵まれ人情味にあふれる日本の田舎町・神山のKAIRは、アーティストの神山での滞在から生まれるインスピレーションと、町民との出会いから生まれるカルチャーショックで紡ぎだされる創意あふれる作品の制作、そして「人」というソフト面に価値を見出しています。

グリーンバレーの主なできごと

1991年	青い目の人形「アリス里帰り」(推進委員会)
1992年	町民主導の「神山国際交流協会」設立
1993年	ALT受け入れプログラム「神山ウィークエンド」開始
1997年	徳島県が「とくしま国際文化村構想」を発表
1998年	「国際文化村委員会」の提案「国際芸術家村づくり構想」が採用される「アドプト・プログラム」開始
1999年	神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)開始
2004年	「NPOグリーンバレー」設立(「神山町国際交流協会」が前身)
2007年	神山町公共施設の指定管理事業受託開始 神山から世界へ開始
2008年	webサイト「イン神山」オープン ベッド&スタジオ開始 移住支援センター業務、「ワーク・イン・レジデンス」開始
2013年	「神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス」オープン
2017年	リターンアーティスト開始
2019年	KAIR x ABCDEF開始

(2020年6月末時点)



KAIR 2014 Stuart Frost (Kamiyama Capsule) 大岡山アートワークでの作品設置風景。

2002年頃からアーティストが神山に移住して制作活動を続けたり事業を始めたりというケースも出てきました。2009年、あるアーティストの滞在地区の皆さんにメインサポートをお願いしたところ、地区をあげてご支援くださったり。こうしてKAIRアーティストと町との関わり方は回を重ねて変化し、それに呼応するように町の雰囲気や町の経済圏に少しずつ影響を与えています。KAIRは、最初から形の定められた芸術振興ではなく、今も進化の途中である「まさに文化が経済を育む」という理念の実現が目に見える取り組み(GV理事大南)」です。



KAIR 2012 オープンアトリエの様子。(出月秀明氏のアトリエにて)

アーティストと町民が「場の価値」を共同制作

7月号特集は、認定NPOグリーンバレー(GV)事業の双壁の一つ「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」第1弾です。GVは設立以来30年にわたり、「芸術」と「環境」の2本の事業を中心に様々な施策に挑戦、試行錯誤を続けています。「環境」事業の「アドプト・ア・ハイウェイ」(前号特集)と、「芸術」事業の「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」を開始して20年余り。ここで改めて、60名を超える各国のアーティストが神山の地で暮らしながら思い思いの制作活動を行っている「神山アーティスト・イン・レジデンス」をまるごとご紹介します。

※GVジャーナルのバックナンバーは「イン神山」をご覧ください。



KAIR 2010 Adam Avikainen (ぼかしの機関車) 撮影:小西啓三
神山町農村環境改善センターにてご覧いただけます。

KAIRと4つのプロジェクト

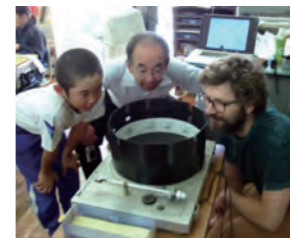
「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」は、町民がアーティストと共に制作プロセスを楽しむ町民手作りの「KAIR」プログラムと、4つのプロジェクトで構成されます。運営は、KAIR実行委員会事務局担当の工藤桂子(2007年~)と糸井恵理(2017年~)がコアメンバーとして、サポートメンバーと共に町民の皆さん、学校や施設関係の方をはじめ多種多様な形でのご支援で成り立っているのが特色。これまで累計23か国79名のアーティストが参加(2019年末時点)、2019年春~秋の期間中には4,400名もの人々がKAIRを楽しむために神山を訪れています。

■アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)

渡航費、制作材料費、滞在費などがサポートされるプログラム。毎年5月下旬に「KAIR実行委員会」は日本国内および海外のアーティスト約3~5名を選考。100名余りの応募から選ばれたアーティストは約2か月神山町に暮らし、日々町民とふれあいながら作品を制作、10月下旬~11月上旬にかけて開催する「作品展覧会」をめざす。神山を訪れ、初めての場所、初めての社会環境、時には見たことも触れたこともない素材に触れた感覚がアーティストの作品制作に影響をもたらす。町内での課外授業、オープンアトリエ、食の交流、アートツアーなど、制作期間での町民とアーティストの交流や神山町での滞在制作プロセスを重視する。



KAIR 2016 Marijn van Kreijl 作品展覧風景。(下分アトリエ) 撮影:生津隆隆



KAIR 2015 Kriss Salmanis 課外授業風景。神楽小学校にて。



KAIR 2018 リターンアーティスト Karin van der Molen 《神山金鐘》大岡山アートワーク 撮影:小西啓三

■ベッド&スタジオ(2008年スタート)

<https://www.in-kamiyama.jp/art/bed-studio/artist/>
自費版KAIR。アーティストが自らの日常環境から離れ、作品や自分自身に向き合う自立したリサーチベースのプロジェクト。

■リターンアーティスト(2017年スタート)

<https://www.in-kamiyama.jp/art/tag/returnartists>
過去にKAIRに参加したことのあるアーティストを再度招聘し、滞在制作をしてもらうプロジェクト。前回の滞在を共に振り返り、その後の彼らの活動や神山での経験がもたらした影響などについて、スタッフや住民の方々と共有し、これからのKAIRについて考えるきっかけとする。

■KAIRxABCDEF(2019年スタート)

<https://www.in-kamiyama.jp/tag/KAIRxABCDEF>
再訪するアーティストたちとの対話から生まれた、より長期的なプロジェクト。伝統工芸や伝統文の継承や提案など、世界に向けた神山や徳島の文化の発信を視野に入れたアートとのコラボレーション。

■神山から世界へ(国内外)(2007年スタート)

<https://www.in-kamiyama.jp/art/tag/kairstotheabroad>
神山で制作された作品が、国内外の展覧会や国際芸術祭で展示する機会も増えている。KAIRをきっかけに、アーティストのネットワークが形成され、お互いのプロジェクトでのコラボレーションなども生まれている。

次号では、KAIRプログラムおよび4つのプロジェクトをそれぞれもう少し掘り下げてご紹介します。

町民とKAIR

~國子さんとアート~



KAIRに初年度から関わり、アーティストのサポートをして下さっている國子さん。町内でも様々な団体に所属しながら、ボランティア活動や神山塾生・移住者のサポートなどにも積極的に関わって下さっています。20年間のアーティストとの関わりの中で國子さんが気づいたことは...

「一番肝心なことは物事を考えるってことやわ。」
「考える力っていうのを養ってもらうとんよ。人間の根本の力っていうのを養ってくれとる。」
「最近も、金曜日の梅星茶屋をやめて、農業に転換したんよ。ほれっちゅうんも、アートに携わってきたけん、考えていってなる。(なにか)もの見たら、これなんぞに使えんかなあ?って考える。人間の生活の生き方の基礎を教えてもらうとんよ。ほれが一番の宝よ。」
「國子さんはご自分でも写真撮ったり、水彩したりしてされてます。」
「サポートばかりではな...作らなったら腹たつてえ(笑)今もなおちゃん(林田直子氏/2001年招聘アーティスト)の絵画教室をずっとしよんよ。」
「ひよっと、なんでも描いて描いてみよる。この頃は、何を描こうかと思ってな。嫁に来る前とか、働つきよる時、退職してから、ほんで今、とか。区分に分けて、一番いい



重版原國子(あいはらくにこ)さん、KAIR 2009のオープンアトリエにて、招聘アーティストの水谷一氏と。

イメージを思い出して、ほれを絵にしていこうかなと思っとるん。近頃、農業をし始めたから、トラクターのところで描きはじめてん。描いた絵をデータにして、死んだらスライドを流してくれたら。私の絵がパーっとな。(笑)
「なおちゃんが絵に合う顔を専門的に見て選んでくれるんよ。ほしたら、ほの絵がそれなりに引き立つんよ(嬉)同じ額でもええでって言われるけど、ほうでないよなあ。」

國子さんの人生はアートやアーティストとの関わりが追加されることで変化してきました。これからも周りの人々も巻き込みつつ、またどう変わっていくのか期待して夢がふくらみます。



KAIR 2016 清水麻紀氏制作の「神山かるた」で木版画ワークショップに参加した時の様子。